

# 学校だより

京都市立洛西中学校

平成19年11月29日

(第16号)

## 「11月3日・文化の日」特集

「11月3日(土)文化の日」特集は、「京都市中学校総合文化祭」の一環として、例年行われている「生徒音楽会」に参加した3年生生徒2名が作文を書িয়েくれました。

「京都市中学校総合文化祭」は、京都市内の中学生が朗読コンクールや弁論大会など14部門において、日頃の文化活動の成果を発表することにより、相互の研鑽と交流を深め、学校における文化活動の充実や新たな芸術・文化の創造、心豊かな人間性の育成などを図る目的で毎年開催されている行事です。

その中のひとつに「生徒音楽会」があります。今年度は60回目の記念大会という節目にあたり、京都会館第1ホールで行われました。本校3年生が「有志合唱」で出場するのは、昨年度に続き2年目となります。参加した3年生の熱い思いが伝わってくるようです。



### 「有志合唱」。

それは、とても心に残る出来事となりました。合唱には90人もの人数が参加しました。そして、この人数で練習が始まりました。練習ができる期間は短かったため、この短い期間で、みんなが一つになり、ちゃんと歌をつくりあげることができるのかという不安と、どんな歌をつくりあげることができるのだろうかという期待がありました。毎日放課後に練習し、日々上手くなっているなど感じていました。練習の最終日には、もうあとはやるしかないという思いでした。

次の日の朝、私はもうすでに緊張していました。そして、その緊張をおさえて最後の練習をしましたしかし、本番が近づくにつれて、緊張は増しました。舞台裏にいるときは、足が震えるほどでした。でも、きっと指揮者や伴奏者の人の方が緊張しているだろう。そして、私には90人もの仲間がいるから大丈夫だと自分に言い聞かせていました。

そして本番となり、舞台上上がったとき、緊張はピークに達していました。そして、紹介があり曲が始まりました。歌を歌い始めると、周りの歌声がいつもより鮮明に聞こえるような気がしました。始めのうちは緊張で思うように声が出なかったけれど、一生懸命歌っているうちに気づいたら緊張がとけていました。

歌っている時間はとても早く感じ、あっという間でした。でも、その短い時間の

中で、私は自分の中に大きなものを残すことができたと思います。そして、練習時間ではなくやる気があれば、成功へと導いてくれるとということ、みんなでやればこんなに素晴らしいものをつくりあげることができることなど多くのことを学び、感じることができました。

合唱は一人ではできないから、みんなの力というのは素晴らしいものだと思います。こんなによい経験ができる機会はもう二度とないかもしれないから、大切にしたいと思います。「有志合唱」に参加し、やり遂げることができて、本当に良かったと思っています。



徐々に迫る時間を単に待つばかりでした。手足は震えており、呼吸も乱れていました。

初めて全員が集まった時、不安もありましたが、楽しみでもあったと思います。練習が始まれば、雰囲気は変わりました。相手に自分たちの思いが伝わる合唱ができれば良いなと思っていましたが、それは難しいことでした。歌詞に込められた思いを理解する必要があるからです。全てを理解するのは不可能だけれども、理解しようとすることで新たな発見や思いが浮かび上がってくると思いました。そして、本番まで一生懸命練習しました。

次は僕たちの番でした。とても緊張しました。自分の胸に手を当て、大きく深呼吸して本番を迎えました。全員が真剣な表情をしていました。今日、この場で歌えることの喜びと聞いてもらえる喜びを胸に、最高の合唱にしようと思いました。

最初と比べれば、気持ちが伝わってくるようになっていたと僕は感じました。それぞれの思いが一つの歌となり、聞き手に伝わっていく合唱に感動を教わりました。

喜びや悲しみ、楽しさや苦しみを分かち合うことが合唱ではできるのではないのでしょうか。歌は会話のようなものだと思います。なぜなら、歌は自分の気持ちを表現できるからです。直接言葉で伝えるのではなく、心で伝え合う。それが歌なのではないのでしょうか。僕はそう思います。

僕の「道」とは何なのでしょう。別れや出会いの道なのか。そうならば、僕たちが舞台まで歩いたのは道ではないのでしょうか。僕は今、この場にいる瞬間が道だと思いました。だから、さっきまで歩んできたのも道。これから歩もうとしているのも道。そして、合唱という道を歩みました。僕が思う道とは、身近にあっても、知ることのできないものだと思います。

歌は、人によって思いや考え方が変わるので、本当に素晴らしいものだと思います。そして、合唱を通して、言葉に込められた思いを感じとることと、自分の思いを伝えることの大切さを教わりました。そして、友達や先生と共に歌ってきたことを幸せに感じました。